

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100288		
法人名	前橋市農業協同組合		
事業所名	グループホーム上陽		
所在地	群馬県前橋市中内町40-4		
自己評価作成日	平成28年8月27日	評価結果市町村受理日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=1090100288-00&amp;PrefCd=10&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=1090100288-00&amp;PrefCd=10&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1度は、季節に合わせたイベントを企画している。</li> <li>・月初めに利用者様との話し合いの時間を設け、食事や日頃の要望を聞き、献立や行事、レクリエーションに反映させている。</li> <li>・慰問の方達が月に5~6団体、施設に来られ、利用者様の楽しみが多く持てるよう努めている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を基に5項目からなる職員行動理念を制定し、職員は、職員行動理念における支援のあり方などの考え方を年度当初に書面で提出し、半年毎に考え方に沿って利用者本位のサービス提供がされているかを検討するなど理念の実践に努めている。地域とのつきあいにおいては、自治会の回覧板で事業所の納涼祭への参加の呼びかけを行い多くの方達が参加している他、昨年度は地域のボランティアを中心に51団体が述べ80回慰問に訪れている。今後は、地域との交流促進をより活発に行うため、福祉用具の展示会や認知症相談会を開くと共に、地域の行事に積極的に参加し、より一層交流を図ることとしている。また、毎月1日を「利用者話し合いの日」と定め、行きたい所や食べたいもの等の希望を聞き、利用者一人ひとりの思いや要望を叶える個別支援に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、出来ている。 また、職員の行動理念も半年に1度のペースで個々に考えを見直し、管理者との共有も行っている。開所当初から比べると職員一人一人の考えに変化が伺える。	理念を基に、5項目からなる職員行動理念を制定している。職員は、年度当初、職員行動理念における支援のあり方などの考え方を書面で提出し、半年毎に考え方に沿った利用者本位のサービス提供がされているか検討するなど、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の慰問団体の方達との交流も多く、地域の一員として日常的に交流できている。 今後もさらに多くの方達との交流が図れるよう努めていきたい。	自治会の回覧板で、事業所主催の納涼祭参加を呼びかけ、多くの参加がある。また、高校生の和太鼓演奏、幼稚園児の歌や踊りの披露など、昨年度は地域のボランティアを中心とした51団体・述べ80回の慰問が行われている。今後は、福祉用具の展示会や認知症相談会の開催を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会等を、地域の方に向け行いたいと考えているが行えていない現状はある。しかし、慰問に来てくれた方達へ認知症の人の理解や支援方法について説明する事はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、取り組み内容の報告、意見交換を行い、参加者からの意見は、サービス向上に活かすよう努めている。	2ヶ月に1回開催し、活動状況等を報告すると共に、「事業所と地域の関わり」と「改善計画」等を報告して意見交換を行っている。意見交換では、その他、家族からの要望があり、会議開催を原則偶数月の第2水曜日と決めて実行している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険、事業運営に関する事で不明な点は、その都度問い合わせを行っている。 また、ケアマネ会議や運営推進会議などを通して、行政との連携を図っている。	更新書類等を持参した際、介護保険や事業運営に関する相談を行い、指導・助言を受けている。また、市の担当職員が運営推進会議以外にも事業所を訪れ、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を施設内に掲示する事により、以前よりも職員1人1人が身体拘束について正しい理解が出来るようになったと思う。その為、身体拘束ゼロを目指したサービス提供が出来ている。	身体拘束に関する研修に参加し、受講後は報告書を提出し、職員会議で報告している。「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」11項目を事務所に掲示すると共に、全職員に配布し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無いが職員全員が日々注意しながら利用者観察を行っている。職員会議等の時間で身体的虐待・精神的虐待等の説明も行っている。また、ニュースや新聞で虐待に関する事が報道・掲載されていた際には、職員同士で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度のアフター研修にて学ぶ機会を持ち、理解を深めてはいる。職員の中にはもっと知識を深めたいと考えている職員もいる為、今後研修への参加も視野にいれていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、家族に納得や理解をしてもらった上で契約を行えている。介護保険改正の際も、その都度全利用者家族に説明を行い、納得・理解を図れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との話し合いの時間を月に1回設け、ご家族へは2ヶ月に1回、運営推進会議で意見や要望を伺っている。出た意見は、運営に反映出来るよう努めている。また、面会時やケアマネがモニタリングを行う際に、ご家族の意見を聞くように努めている。	毎月1日を「利用者と話し合いの日」と定め、思いや希望を聞いている。家族からの「夜の利用者の様子を知り、利用者と同じ食事を摂りたい」との要望に、宿泊や同じ食事を提供するなど、家族の意見に沿った運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談にて意見を聞く機会を設けている。業務時間においても管理者は、職員を気にかけて意見を聞き改善・反映に努めている。	日々の申し送りでは、使い古した備品の交換や消毒薬の変更等を話し合い実行する他、管理者は年1回職員との話し合いの機会を設けて、夜勤の勤務時間の変更を行うなど、職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備や労働環境の整備に日々ご尽力下さり、職員一同感謝している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ多くの研修に参加出来るよう配慮している。その為、職員1人1人が少しずつスキルアップ出来ており、有資格者も前年度に比べ増加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で行われる勉強会や研修には極力参加するように努めている。その為、同業者とのネットワークは確実に広がっている。参加して学んだ事を活かし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用をされる段階で利用者の不安・困っている事を確認し、安心して利用していただけるよう関係づくりの構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時や契約時に、出来るだけ家族の不安を少なく出来るよう努めている。入居後も何かあれば、こまめに報告行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の時に何を必要としているのかを把握し、状況によっては他の施設サービスの利用を勧める事もある。出来るだけ本人と家族のその時の状況を把握するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人1人を尊重し、嬉しい事や楽しい事、悲しい事を一緒に共有出来るよう努めている。その為、利用者職員の間では、良い関係が築けており、利用者から「この職員さんはいい人が多いね。」とお褒めの言葉が聞かれる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ面会や外出等で家族と過ごす時間が持てるよう働きかけをしている。しかし、家族の都合もある為、中々会う機会が少ない方もいる。少しの時間でも会えるよう今後も働きかけを行い、全利用者の家族との絆を大切にしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上陽として開けた施設を目指しているので、家族の協力を得ながら、馴染みの人との交流の支援に努めつつ、新たな友人関係の構築に努めていく。馴染みの場所へは、本人の要望に応じ対応している。	友人や知人が訪れた際は、「本人が大変喜んでいたので、再度来て下さい」などと伝え、雰囲気づくりにも努めている。家族の協力を得て、外食や墓参りに出掛けている。100歳の祝には、親戚の人達に集まって頂き和やかな一時を過ごせるよう支援した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりや関係性を把握し、楽しく仲間と過ごせるよう援助している。しかし、疾病により関係作りが困難な方もいる為、職員が仲介し、孤立しないよう日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、他施設に入所した方は、必ず面会に行くようにしている。また、家族にも何かあれば気軽に連絡して下さいとお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、プラン変更や更新時等に、必ず本人に確認するようにしているが、認知症により、本人の意向が確認できない場合には、ご家族の意向を確認し、本人本位に検討出来ている。	毎月1日の「利用者と話し合いの日」に、行きたい所や食べたいもの等の希望を聞き、「温泉に行きたい」という人には他の利用者が誘い日帰り温泉に行ったり、食べたい物には「今日は〇〇さんが希望したうな丼です」と紹介して食べたりなど、利用者一人ひとりの思いや要望を叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、利用後のアセスメントにおいて、今までどのように生活してきたのか把握するように努め、職員一同で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の日中・夜間の様子、身体・精神状況等を申し送りや自分で勤務する事で利用者本人の現状把握を行い、ご家族にもこまめに報告するようにしている。また、個人で得た情報を他職員と共有出来るよう申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や日々の打ち合わせを通して、その人にあった介護計画、プランの評価を行っている。	定例の見直しは、6ヶ月毎のモニタリングを基に家族も参加する担当者会議を開き、家族の要望や職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。毎月行うケース会議や退院等に伴う身体状況の変化、本人・家族の要望に応じ、随時の見直しを行っている。	モニタリングは新鮮な目で毎月行い、日々のケース記録は介護計画に沿って記載されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は介護職にて綿密に記載し、記録されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、外出、買い物等、家族が行けない際には、職員で対応するようにしている。出来るだけ柔軟に対応するように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問者を招き、利用者が参加し、1人1人が楽しめるよう日々取り組んでおり、利用者も1日1日を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、今まで通りの医者に掛かる方、主治医を変更する方、必要に応じて往診を希望される方と、適切な医療が受けられるよう支援出来ている。また、必要に応じて受診に同行するなど主治医、医療職と連携した支援を行うことができている。	家族や本人の意向を尊重しかかりつけ医を受診し、受診対応は原則家族が行い、その際は口頭で症状を家族に伝え、難しい症状の時には文書を家族に渡したり、予め主治医に電話で状況を説明したり、或いは同行したりなど、臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で、医療に関する事は必ず看護師へ報告・確認を行い、夜間も急変時は看護師へ電話連絡を行い、指示を仰ぐようにしている。その為、看護師との連携は、うまく図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、家族や入院先の看護師やソーシャルワーカーとの連絡を取りながら、入院期間の確認、現在の状態、退院時の連絡調整を行い、病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、家族の理解を得ている。また、利用者の状態が悪化した際も、今後についてその都度説明を行い、家族との連携を図りながらサービス提供している。その為、家族の方も施設の方針を理解されている方が多いように思える。	重度化し終末期を迎え、家族が希望する場合は、本人・家族が安心して心静かに過ごせるよう、状態に応じ、主治医、看護師、職員と話し合い対応している。	重度化や終末期に関する職員研修を行い、職員の不安解消に努められるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや参考書などを用意すると共に、特変があった場合には看護職、ケアマネ、管理者に連絡し指示を受けるなどの体制が構築されている。職員の実践力も訓練・経験により向上出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中・夜間を想定し、全職員が訓練出来るよう計画している。地域や入居者家族への通知や声掛けを行い、家族や地域を巻き込み、訓練出来るよう試み、家族も参加しての訓練を行う事が出来た。また、運営推進会議において非常食の作り方・試食をする取り組みを行った。	年2回消防署の指導を受け、夜間を想定した総合訓練を行っている。自治会の回覧板で地域の人達の参加を呼びかけ、近隣の家々にパンフレットを持参して協力を要請している。地域住民が災害に合われた時は食糧等の備蓄もあり、事業所を一時避難場所とするよう運営推進会議で提案している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である為、1人1人を尊重し、言葉掛けには注意している。ただ、敬語が全てでは無いとも考える。時と場所、状況を鑑みた声掛けも必要である。定期的に職員会議でも皆に伝え、職員一同で注意するよう対応している。	人生の先輩として丁寧な言葉かけを行い、不用意な言動には職員同士で話し合い是正し、利用者の気持ちを害さないよう支援している。失禁などの時は、羞恥心に配慮し誇りを傷つけないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定が出来るよう、対応している。認知症により、自己決定が出来ない方は、何を望んでいるかを職員一同日々考え共有するようにしている。また、月に1度利用者様との話合いの場を設け、思いや要望を聴取している。そこで出た意見は極力実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースは、大切にするようにしているが、状況によっては、職員優先で動いてしまう事がある。出来る限り、利用者のペースで過ごして頂けるよう今後も支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、訪問理美容が来所し、頭髪の状況を鑑みて、もしくは本人の希望を聞き、ヘアカット行っている。また、男性利用者は入浴時の髭剃り、爪切り等の整容・身だしなみに配慮している。衣類も本人の要望に応じた衣類用意を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度の利用者様との話合いで、食べたい物を聞き、提供するようにしている。また、調理員も利用者の好みや、検食での意見を参考にして、食事が楽しくて美味しい時間になるよう努力している。利用者の中には、他者にエプロンをしてくれたり、片づけを手伝ってくれる方もいる。	調理免許所持者2名を調理専門員として採用し、「利用者との話し合いの日」などで把握した利用者の希望を採り入れた2週間分の献立表を作成し、家庭的でおいしい料理を提供するよう心がけている。時にはテラスにテーブルと椅子を出し、食事やお茶を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し、その人に合った量を提供するように心掛けている。また、高齢になると水分の摂取量も低下する為、出来るだけ多く水分摂取出来るよう、工夫をし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔ケアレベルに応じた声掛けや介助を行っている。必要時には、家族へ連絡し、歯科受診・歯科往診をして頂いたり、緊急時には受診介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	症状により、やむを得ない場合はオムツ対応させて頂いている。利用者様には、極力トイレでの排泄に努めさせて頂いている。	バイタルチェック表に排便の回数を記載し、日々のケース記録に記載された一人ひとりの排泄記録を基にトイレ誘導を行い、オムツを減らす支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ運動を出来るよう努めている。調理の方でも食物繊維の多い物の提供にも努め、工夫している。出来る限り、下剤を内服しなくてもいいよう、便秘予防の意識を持っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりとした楽しい気持ちで入浴出来るよう、入浴剤を使用したり、入浴者への声掛けの工夫を行っている。拒否の強い利用者にも入浴したくなるような声掛けを模索し、雰囲気作りをしていき、無理強いのないタイミングで入浴して頂けるようにしている。	原則週2日の入浴をしているが、入りたい時はいつでも入れる体制にある。森林浴やゆずの香り等5種類の入浴剤を用意し、希望する入浴剤を使用して楽しく入浴できるよう配慮している。また、希望により日帰り温泉を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身状態を把握し、昼間でも休息が必要な方には、臥床して頂くように介助している。また、夜間良眠出来るような環境を整える為にも、室温や衣類にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報は、カルテに挿み、全職員がいつでも閲覧出来るようにしている。しかし、全職員が副作用、用法、用量を把握出来てはいないと思うので、アフター研修等で薬についての研修機会を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や出来る事を把握し、それを活かした活動を提供し、職員が労ったり、盛り上げていく事で、役割や喜びを感じて頂いている場面が多くある。これからも生活歴等を踏まえた活動や会話を模索していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望する訴えに応じて、定期的な外出イベントを組む他に、職員体制に考慮しながら、突発的な外出援助を行っている。例えば、遠方へのドライブ、イチゴ狩り、花見、七夕、催しへの参加もしている。	近くの公園や事業所の周りを散歩したり、職員と食材の買い物に行き福引抽選を楽しんだりしている。また、年間行事計画で花見等に行く他、利用者が「今日は天気が良いので外出したい」と希望すればドライブに出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていたいと要望のある方は、家族と相談し、了解を得られれば、ご自分で管理するようしてもらっている。外出行事の際には、預かったお金から食べ物等好きな物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは無いが、電話をしたいと訴えがあった際は、状況に応じて自ら電話で家族と話ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った物を掲示し、季節感を取り入れている。掃除も各職員意識し、行き届いており、家族や見学者から「綺麗にしていますね。」とお言葉を頂く事が多い。利用者の方が過ごしやすい温度調整に心掛けており、居心地良く過ごせていると思う。	天井や床・壁は木材を基調に仕上げられ、木の香りが漂い、建物内は適切な温・湿度管理がされ、清掃が行き届いている。BGMが流れ、椅子と床の間に踏み台が置かれ、気持ち良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後、利用者同士で居間のソファに座り、テレビ観賞したり、居室で休んでもらったりと、個々のペースに合わせて過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、入居時に家族と相談し、必要な方には使い慣れた物を持参して頂いている。その為、個々に合った居室空間になっている。	ベッドやタンスは事業所のものが使用されているが、利用者や家族の意向を取り入れた配置となっている。使い慣れた枕や布団が持ち込まれ、お気に入りの歌手のカレンダーが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、物の配置や掲示物の位置などは常に気に掛けている。その為、1人1人が生活しやすい安全な環境作りが出来ていると思う。		